

研究結果

報告者は財団法人住友財団の補助により2008年5月1日より四ヶ月間日本に滞在し、研究に従事することができました。その間「外国人研究員」という資格で、東京大学大学院人文社会系研究科の中国語中国文学研究室に在籍いたしました。世話教官は藤井省三教授でした。

今回の研究テーマは「下村湖人と台湾」で、主に『次郎物語』、『論語物語』などの小説の作者——文学者兼教育者の下村湖人（本名下村虎六郎、東京帝国大学英文科卒、1884-1955）の台湾滞在前後の文学活動、教育活動、台湾経験などについて考察いたしました。下村湖人が戦前六年もの間台湾に滞在し、台中一中や台北高等学校の校長を勤めていました。彼の在任中、大規模な学生ストライキ事件が起き、警官も出動するほどの騒動になり、結局処分問題をめぐって校長を辞任することになりました。本研究はこれまでほとんど知られていなかった下村湖人の在台時代の足跡を丹念に辿り、大日本帝国エリート文教官僚から教養小説家へと変貌していく過程を厳密に考察したものであります。

報告者は日本に滞在していた期間積極的に東京大学、小金井市文化財センター（浴恩館、下村湖人が所長を務めた旧大日本連合青年団講習所）、国会図書館、日本近代文学館などで資料を蒐集する一方、下村湖人の故里の九州佐賀県で下村湖人生家記念館などを見学し、下村湖人の遺族及び関係者を訪問し、佐賀大学、佐賀県立図書館などで資料調査をいたしました。

今回の研究は住友財団の経済補助及び友人たちの協力のおかげで、豊かな研究成果を得ることができましたので、ここで謹んで御礼を申し上げます。その研究成果は『台湾における下村湖人——文教官僚から作家へ』（東京：東方書店、2009年3月）という専門書として出版することができました。本研究によって戦前期の日、台文化交流の一側面が明らかになったと考えております。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

張季琳『台湾に於ける下村湖人——文教官僚から作家へ』
(東京：東方書店、2009年3月)